

令和 7 年 8 月吉日
兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター

関係各位

令和 7 年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会（ご案内）

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

本研修事業では、脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士（PT・OT・ST）等が、専門的な知識や技術を学び、より適切な支援を行えるよう養成することを目的に研修会を開催しております。

令和 7 年度は「肢体不自由児者のポジショニング」をテーマとし、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の各テーマについて、以下のように年 3 回にわけて実技を中心としたプログラムの研修会を開催する予定としております。（※好評につき令和 6 年度と同じテーマと内容の研修会を開催いたします）

記

令和 7 年度「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会

日 時：（第 1 回 理学療法） 令和 7 年 12 月 6 日（土） 9：50～16：30
（第 2 回 作業療法） 令和 8 年 1 月 10 日（土） 9：50～16：30
（第 3 回 言語聴覚療法） 令和 8 年 2 月 14 日（土） 9：50～16：30

会 場：神戸臨床研究情報センター（TRI）
（〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 1 丁目 5-4）

定 員：30 名

※定員に達した場合は、選考させていただく場合がございます。

受講対象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の有資格者

※小児の経験がない、あるいは経験年数 5 年未満の療法士を対象とした研修内容となりますが、参加者が定員に満たない場合は経験年数 5 年目以上の方も参加いただけます。

参 加 費：兵庫県内在住／在勤：6,000 円（第 1 回～第 3 回セット）
兵庫県外在住：8,000 円（第 1 回～第 3 回セット）

*振込先は応募後に参加の可否とともにご連絡いたします。

申込方法：下記 9 項目を明記の上、メールでお申込みをお願いします。

メールアドレス amariha.pos@gmail.com

件名に 「令和 7 年度脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」研修会申込

本文に ①所属施設名・住所 ②氏名（ふりがな） ③職種 ④免許取得年 ⑤小児経験年数
⑥性別 ⑦電話番号 ⑧住所 ⑨メールアドレス

*お申し込み後、1 週間以内に「受付完了のお知らせ」が届かない場合は、

研修会事務局（06-6481-5565）まで平日（10～17 時）にご連絡をお願いいたします。

申込締切：令和 7 年 10 月 31 日（木） 正午まで

【問い合わせ先】

兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター 事務局

TEL 06-6481-5565 / E-mail amariha.pos@gmail.com

1 障がい児者に関する最近の主な動向等【担当：県福祉部障害福祉課】

肢体不自由児者に携わる療法士として、知っておくべき障がい児者に関する最近の主な動向等について学ぶ。

2 障がい児者に対する医療・看護ケア【担当：看護師】

在宅で暮らす医療的ケアが必要な障がい児者と関わるうえでの必要な基本的知識・リスク管理、看護の実際を学び、看護とリハビリの連携について学ぶ。吸引・経管栄養注入時の注意点を知り、ポジショニングの方法について考えることができる。

3 変形・拘縮に対する医学的介入【担当：医師】

脳性麻痺における変形は、麻痺、筋の不動、筋バランス不良、成長障害などによって生じる。変形には、動的変形と静的変形(拘縮)があり、放置すると進行する。変形は姿勢不良や運動障害、疼痛を引き起こし、脊柱側弯症の様に生命予後に関わることもある。介入手段としては、リハビリテーション、装具療法、手術、薬物療法があるが、年齢や重症度によって適応が異なる。講義では主に医学的介入について紹介していく。

4 臥位でのポジショニングと臥位、座位の姿勢変換【担当：理学療法士】

脳性まひ児者における臥位でのポジショニングや姿勢変換は臨床場面における課題である。幼少期から加齢に伴い身体機能面の変化が生じ、ベッド上や座位で過ごされる方は多く、ポジショニングや姿勢変換は临床上必要な要素となることが多い。

今回の研修会では各姿勢でのポジショニング・姿勢変換を体験し、担当されている事例と照らし合わせながら実際の場面でも応用していただきたい。

5 環境に適した座位でのポジショニングから上肢活動まで【担当：作業療法士】

肢体不自由児者の座位姿勢においては、その障害の部位や程度、特性に応じた対応が必要となる。さらに安静時の安楽姿勢や活動時の抗重力姿勢など、その目的により多様なバリエーションがある。この講義では、一般的な座位姿勢とシーティングの基礎を踏まえ、見る・触る・操作するなど上肢活動に応じた座位ポジショニングの具体例について、実技を通じて体験しながら考察する。

6 食事に適したポジショニングと介助方法【担当：言語聴覚士】

食事はコミュニケーションと認知機能の発達や維持に関わる。また、粗大運動機能や知的発達の遅れが重いほど食事の持つ意味は大きい。摂食嚥下機能は姿勢運動と密接に関連している。脳性まひ、肢体不自由児者は成長、加齢に伴いその機能は変化しやすい。成長、加齢に沿った食事支援をするために必要な視点を学ぶ。よくある姿勢とそのときの食べ方、飲み方を知ると共に、食事時のポジショニングと介助方法を実習する。